

復興を歩む

vol.38

沖縄までいの旅
(事前研修)

今年も7月21日から24日の日程で、小学6年生の「沖縄までいの旅」が実施されます。草野・飯樋・白石小学校の6年生13人と村外の小学校に通う14人の合わせて27人が参加。同小学校の吉川武彦校長が団長を務める他、11人のスタッフが同行し行程を支えます。

6月9日には、交流センター「ふれ愛館」で、初回の事前研修会が行われました。班に分かれて自己紹介をしたり、班の愛称を決めたり。子ども達が、旅の一步を踏み出しました。子ども達が船で北海道を目指した「海洋アドベンチャー（平成10年度～21年度）」に続く事業として、「沖縄までいの旅」は、平成22年にスタートしました。そして発災した平成23年3月の大震災。困難な時期だからこそ多様な学びを大切にしようと、全村避難となったこの年も、村は子ども達を沖縄に送り出しました。

以降「いたてつ子未来基金」を活用して実施してきたこの旅は、仮設校舎（今年3月に閉校）で学ぶ6年生が、転校した友達と再会し、南国沖縄で共に故郷を想う旅ともなっていました。

この日の研修には、綿貫田さんわたぬきさんを講師に迎えました。綿貫さんは沖縄県石垣島の出身。八重山平和祈念館の学芸員として平和教育に携わり、結婚後は群馬県内で活動をしています。綿貫さんは、具体的な資料を見せながら、沖縄が直面してきた苦難の歴史や、自然・文化の魅力などを、丹念に伝えました。

毎年、沖縄との出会いを通して、集団としても個人としても大きく成長する6年生。秋には報告会なども行われる予定です。

一方、震災後の平成23年から中学生の海外研修として実施してきた「未来への翼」は、7月22日から29日までの日程。今年は、福祉や教育の先進地と言われる北欧のスウェーデンやフィンランドで、13人の中学生や福祉関係者らが研修を行います。

「沖縄までいの旅」の様子は広報8月号で、「未来への翼」の様子は9月号でお知らせする予定です。

綿貫さん（写真右端）は、沖縄の歴史や自然・文化の魅力などを、分かりやすい言葉で、ていねいに伝えました。写真は、沖縄戦のできごとを語る綿貫さんと、真剣に耳を傾ける子ども達の様子です。講演の結びには「沖縄の人達は、つらい時こそ力を合わせ工夫してそれを乗り越えて来ました。独特な文化や自然も豊かにあります。楽しんでくださいね」とメッセージ。研修を終えた子ども達は「戦争に巻き込まれた子ども達が体験したことを初めて知りました」「今日教わった沖縄の言葉を現地で使ってみよう」と話し、沖縄の旅に思いを馳せていました。

防空壕、ガマと呼ばれる洞窟

